



ブラジル子どもたちと。途上国訪問時のサッカー教室は恒例になっている

スポーツで 世界とつながる

頭対談



隊員時代、指導した生徒たちと試合後にハイタッチで健闘をたたえ合う

るJICAボランティア。
一つがスポーツだ。
ジルで野球を指導した黒木豪さんに、
国際協力について聞いた。

開発途上国で活動す
その活動分野の
サッカー解説者の北澤豪さんとブラ
スポーツを通じてできる

北澤豪さん

スポーツマンシップを たたき込む

黒木 学生時代はずっと野球漬けの生活でした。本当にスポーツしかしていません。海外に行くどころか、大学の英語の授業も再履修になったくらいで(笑)。今思えば、本当に狭い世界で生きていました。

北澤 それがなぜ、いきなりブラジルで野球を教えることに？

黒木 指導者としてスポーツに携わりたいたと、大学卒業後は中学校の講師になりました。でもこんな僕が教壇に立つていいのかわからないとあつて。常に人と真正面から向き合う仕事で、しかも相手は思春期真っただ中の中学生。もっと視野を広げなければいけないと日々感じていました。

そんな時、大学時代の恩師からJICAボランティアの話が聞きました。価値観を変えるなら、地球の反対側に行くくらいじゃないとだめだと。まさに、当時の僕にぴったりでした。実際に派遣になったのは、本当に日本の反対側にあるブラジルでした。

北澤 でもブラジルって言えば、サッカーじゃないですか？そこで野球を教える

らえませんでした。味方はチームの2人だけ。どんな練習に来なくなってしまう。でも、毎日来ている子は確実にうまくなっていった。それを見て悔しいと思ったのか、1人、2人と、次第にメンバーが増えていったんです。そのうち「みんなで試合に勝ちたい！」という連帯感が生まれてきました。

北澤 JICAボランティアの人たちはそういうのがうまいと思います。常に全力で一生懸命。その場の状況に合わせて、どうすれば一番うまくいかを考えています。その創造力、行動力は本当にすごいと思います。

黒木 いつも予選ですぐに負けていたチームなのに、1年後には全国大会に勝ち上がるまで強くなっていました。でも強豪に当たって、5回の時点で11対0まで差が開いてしまったんです。それでも良くながらばいいと思っていましたが、生徒たちは全然あきらめていなくて「絶対負けなぞい！」と声をかけ合っていて。結局は負けてしまいましたが、試合後はみんな涙を流していました。

北澤 黒木さんの情熱が伝わって、チームの中に信頼関係が生まれたんですね。僕の場合は、まずは相手の国や地域の状

って大変じゃありませんでしたか？

黒木 サンパウロ郊外で中学生の日系人野球チームのコーチを任されたのですが、膝から下にボールがきたら足でトラップするんですね。小さいころからサッカーをやっているんで、自然と足が出てしまっただけなんです。野球に情熱もなくて、最初は「この日本人、一体何しに来たの？」という反応でした。

北澤 僕も同じような経験があります。JICAオフィシャルサポーターとしてパラグアイに行った時のことです。あちらは言わずと知れたサッカー大国。中学校でサッカー教室を開くことになったのですが、現地のコーチたちは「日本人から習うことなんてない」という反応でした。

黒木 野球の技術以外にも、礼儀なども教えてほしいと言われていました。最初は少しづつ様子を見ながら進めるつもりだったのですが、遅刻はする、あいさつはしない、道具は雑に扱うなど、とにかくひどい。2、3カ月たつて日本人が来

況を見ながら、良い部分は尊重して、足りないなどと思うことをサッカー教室の練習メニューのヒントにしています。パラグアイでは「コミュニケーション能力」を身に付けるために2人組のパス練習を取り入れたら、子どもたちは伸び伸びとプレーできるようになりました。

6年後に向けて スポーツを盛り上げる

北澤 2020年の東京オリンピックに向けて、日本国内ではスポーツの役割が変わってくると思います。競技としてだけではなく、スポーツがもっと身近なものとして広まってほしい。そして何よりもスポーツは教育。そのためには、多様な価値観を伝えることのできる指導者の育成が急務です。黒木さんのように途上国に飛び込んで、いろいろな経験を積んだ人がもっと増えるといいなと思っています。

黒木 僕もスポーツをやっている大学生

でも何も変わらないと思われたら、そこからの軌道修正はすごく難しいと感じました。それなら最初からシヨックを与えようと、礼の仕方からグラウンドの整備の方法、食事の作法までとにかく厳しく教えました。

北澤 同じ種目でも、国によって戦略も違うし、全てを分かり合えるわけではない。でも、黒木さんが教えたような技術以外の努力は、スポーツでも、一人の人間としても、とても大切なこと。メンタルがきちんとしないと良いプレーもできませんから。日本人の武士道の精神というか、そういうことが教えられるのは、JICAボランティアの強みかもしれないですね。

ないものから生み出す 日本人スピリット

黒木 でも最初は、なかなか理解しても

たちに、JICAボランティアへの参加をぜひ勧めたい。僕自身、日本に帰国してから指導の姿勢、学生との向き合い方が変わってきたように感じます。最近は安定志向の学生が多いのが残念です。チャンスがたくさんあるのにもつたいない。考える前にやってみると彼らには言っています。

北澤 これから6年で、日本の流れを大きく変えるのは難しいかもしれないけれど、少しずつ、スポーツを通じてできることを増やしていきたいですね。その一つとして、昨年、社会貢献活動「スポーツプロボノ」を立ち上げました。この分野で途上国とつながれる方法を、一緒に見つけていきましょう。

黒木 豪 KUROKI Go

日本体育大学 学生支援センター職員、野球部コーチ/
日系社会青年ボランティアOB

1985年宮崎県出身。横浜高校時代、選抜高等学校野球大会で4番打者として準優勝に貢献。日本体育大学卒業後、中学校の保健体育講師に。2009～2011年、日系社会青年ボランティア(野球)としてブラジルで活動。2013年WBCブラジル代表コーチ。

北澤 豪 KITAZAWA Tsuyoshi

サッカー解説者/JICA オフィシャルサポーター

1968年東京都出身。元サッカー日本代表MF。現役引退後は、サッカー解説者の傍ら、国内外の若者へのサッカー普及に取り組む。2004年よりJICAオフィシャルサポーター。2013年には社会貢献活動の一環として「スポーツプロボノ」を立ち上げる。

黒木豪さん

